

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・
地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

もくじ

映画「降りてゆく生き方」の風景の中に、
「ついのすみか」最新モデル・・・1P
NPO担当職員リレー・・・2P
愛知県職員NPO理解インターンシップ・・・2P

日本福祉大学サービスマーケティング報告・・・3,4P
中間支援のこれからの役割について考える
～新しい公と地域の交流の場～・・・5P
サポちたインフォメーション・・・6P

映画「降りてゆく生き方」の風景の中に、「ついのすみか」最新モデル



泰阜村 地域交流センター悠々

悠々」での宿泊研修が目的である。

昨年度上映した映画「降りてゆく生き方」の田園風景に勝るとも劣らない日本の原風景が、アルプスの山々に囲まれた南信州伊那谷、泰阜の地に繰り広げられている。人口は1,900人、高齢化率38%という過疎の村である。

大自然の美しさに魅せられ、この地に移住した元高崎健康福祉大学教授の本田玖美子さんが理事長を務める、高齢者協同企業組合がこの施設の指定管理者。5年前、国交省まちづくり交付金を得て実現したこの施設は、「介護保険では不自由を抱えた高齢者を在宅には戻せない。地域の仲間の支えと生活の中に継続したリハビリが必要」との



本田玖美子さん

本田さんのアイデアをもとに、スウェーデンの過疎地で行われていた住民運営の共同住宅をモデルにつくられた。

総ヒノキ造りの平屋建て延べ床面積191坪に10部屋の共同住宅と薪ストーブ、掘りごたつのあるリビングが共有スペースで、村民の交流サロンとしても使われている。大きなテーブルを囲んで長屋の住人とスタッフ、村民が大家族のように食事を共にすることが可能だ。各部屋にもキッチンとトイレがあるが、部屋にかぎはなく、互いの生活の音が響き合う環境が、住人の安心感を支えており、長屋と呼ぶにふさわしい。

組合員は県内外で62人。5万円の出資金と年間60時間のボランティアの義務があるが、10部屋のうちの5部屋を月10万円で利用できる。残りの5部屋は月15万5千円で組合員

以外が利用できる。現在91歳の2人が住人だ。

介護スタッフはおらず、必要があれば外部からヘルパーが派遣される。日常生活はスケジュールもなく、自由にその人らしく過ごすことができ、夫婦で入居も可能だ。

本田さんの理念は、憲法25条の実現である。「健康で文化的な生活とは？過疎の村が失った家族の代替機能は地縁の再生しかない。家族の中心にはお母さんがいる。母は昔から休む暇なく家族のケアをしてきた。

私はこの長屋の母なのだと思う」無給の理事長は、村民の当直ボランティアや都会からの研修ボランティアに支えられながら、ついのすみか最新モデル事業に挑戦中だ。

都会の住民は、この

大自然にいやされて帰っていくという。知多から出向いた私達も、このゆったりと時の流れる村の生活の中で、日常の慌ただしさから解放されてリフレッシュできた。福祉現場で働く人々が、宿泊研修の形でこの新しい取り組みを応援することができるのではないか。ケアの新しい形のヒントを得る機会にもなる。食事代実費1日2,000円で受け入れ可能という。

また、共有スペースが村民ボランティア拡大の要だ。本法人が拡充を進めている「地域の交流の場」の姿がここにもあった。村で普通に暮らす人々が日常生活の延長でここに通り、住人や都会からの人々との交流を深め、具合が悪くなったら住むことができ、地域の人々の支援を受けられる。共有スペースにどれだけ沢山の人の出入りさせ、関係性を紡ぎ合うかが問われる実践であった。(岡本)



当直ボランティアの村民と談話するリーダー研修の参加者

地域福祉サポートちたホームページ

ブログ さほちた日記 始めました

NPO担当職員リレー

まちの縁をつなぐ「場づくり」を

刈谷市役所 市民活動部市民協働課

北洞貴康氏

刈谷市は、平成19年から共存・協働のまちづくり推進基本方針の策定を始め、「市民との共存・協働推進検討委員会」や公募市民による「市民ワーキング会議」での検討を経て、21年2月に完成・公表後、共同・協働のまちづくりを推進している。



まちづくりの目指すテーマは「市民主体」と「ネットワーク」。「気づきと振り返りが人材育成には大事。どういう人をどう育成するか、そしてどのような活躍の場をつくるか。そのためには、効果的な連携を促進するコーディネーターが欠かせない。」と話す。

北洞氏は環境課、企画政策課、1年間の民間研修の後、現在の市民協働課に配属されて3年目。まちの生活に沿った仕事に関わった経緯と、ごみ問題で一緒に解決しようとする市民に出会えたことが大きかったと振り返る。人との縁を大切にしながら、「しゃべり場」「つむぎ場」といった交流の場づくりや目には見えないネットワークの構築に奮闘中だ。

現在施策の一押しは、市民活動支援基金制度。市民・団体・企業から寄附があると市も同額を積み立てるマッチングギフトを取り入れている。資金支援だけでなく、今後は、人材などのソフト面に力を入れ、まちの縁つなぎの力量を見守っていききたい。(市野)

愛知県職員NPO理解インターンシップ

藤井 淳義さん (出納管理課)

7月16日～7月23日

研修の中で最も学ぶところが多かったのはNPO法人に携わる様々な方の話を聞くことができたことです。皆さんのお話の中で「地域の課題をなんとかしたい」という想いが強く伝わってきました。これは行政が最も念頭におくべき考えであると思います。



現在の多様化する地域の課題について、行政だけで対応することは非常に困難であり、NPO法人などの市民活動団体と同じ想いを持って協働していくことの重要性を再認識することができました。

澤田 亮さん(建築指導課)

7月23日～7月29日

私が一番感じたことは、職員の人たちやボランティアの人たちの意思の強さです。サポートちたでは中間支援という立場で、ヘルパーの講習や生活支援員の研修を開催し、福祉の心を持った人材を育成し、誰もが助け合い心豊かに生活できる地域づくりを実現しようと活動していました。

今回、皆さんと時間を共有したことで、想いを実現させるため自分たちの手で何とかしたいという気持ちがとても伝わってきました。まずは、今回感じたことを自分の周りに伝えることから始め、少しでも誰もが助け合い心豊かに生活できる地域づくりに貢献していきたいと思いました。



安藤 直樹さん(湾岸課)

7月28日～8月4日

今回さまざまな活動に参加させていただきとてもいい経験になりました。実際に見て、体験することで現場の雰囲気や想いを感じることができました。

一番驚かされたのは現場の人達のパワーです。様々な課題や問題を乗り越え、何かをやり遂げようとする時の人の力はこんなにすごいのかと感じ、自分も何かしようという思いにさせられました。こういったパワーのある魅力的な人にひかれて、さらに人が集まりNPOという組織ができているのだなと思いました。

今回の研修はNPOとの協働についてより深く考える良い機会になり、これを今後に生かしていきたいと思えます。

=ヘルパー2級養成研修講座=

<日程> H22年10月5日(火)～H23年1月13日(木)
9:30～16:30

<場所> 知多市市民活動センター

<受講料> 65,000円(テキスト代・実習費込)

<問合せ> NPO法人地域福祉サポートちた 担当:竹内
※日程等詳しくはお問合せください!!

日本福祉大学 サービスマーケティング 原田ゼミ 学生レポート

日本福祉大学社会福祉学部の教育プログラム、サービスマーケティングを選択した私たち河合と松田の2人が、この夏サポートちたで体験し、学んだまとめを報告します。

サービスマーケティング五箇条

- 一、学ぶ意欲、つながる力、やり遂げる力を育む
- 二、市民力を育む
- 三、活動で関わる人が相互に学び合う
- 四、地域の課題に気付く
- 五、ボランティアでも実習でもない

■NPO現場見学バスツアー

私たちは知多半島の福祉NPO団体を12ヶ所訪問した。訪問先で見学したデイサービスの内容は、それぞれの代表の想いと利用者のニーズによって違いがあった。

団体内でも介護保険制度の事業と、制度外のたすけあい活動を組み合わせ、小さな子どもから高齢者まで、誰でもサービスを受けているところがある。また、重度の障害の方に対応できる専門性も持ちあわせている。

NPO法人もやい代表の安井さんの「小さな団体が落ちこぼれないのは、サポートちたがNPOをつないでいるから。」という話が印象に残った。これは、サポートちたが中間支援の役割を担っていることと、その取り組みの中の「つなぐ」＝「助けあいの輪」づくりのことだ。

■計画づくり ～パート1～

サービスマーケティング(以下SL)は実習と違い、活動受託先にメリットがあるように、受託先団体のニーズを学生が学習(調査)し、それに基づく計画を立てて実践する。サポートちたは福祉分野だが、中間支援団体なので直接支援する利用者がなく計画が難しかった。

【活動計画第一弾】

- 小学生対象のNPO現場見学バスツアー
- 福祉イベント:会員団体と連携した
ファンドレイジング
- 劇:サポートちた設立の経緯を紹介する
- サポートちた会員団体用の
ソーシャル・ネットワーク・サービス

「小学生対象のNPO現場見学バスツアー」についてツアー経費の内訳を教えてもらった。しかし、計画案を企画書に書きうつす際[目的]・[コスト計算]などが盛り込めず、計画の練り直しとなった。

【活動計画第一弾】はサポートちたや地域のNPOニーズを考えずに、自分たちのやりたいことを計画していた。こ

れではSLの主旨からも外れている。

■計画づくり ～パート2～

NPO現場見学バスツアーに参加する際、訪問先の事前調査をホームページで検索しなかった。また、大学でSLを受講していない学生との会話から、NPOについてあまり知られていないことがわかった。

【課題】

- ①情報発信(とくにWEB上)の遅れ
- ②市民意識・福祉への関心の低さ

【対策】

- ①ホームページのない会員団体の情報を、サポートちたホームページに掲載する
- ②学生を対象にNPOを知るきっかけをつくる

【活動計画第二弾】

- ①ホームページを持っていない会員団体への取材、紹介ページの作成
- ①福祉NPO現場体験
- ②学生によるマスコットキャラクター作り
- ②福祉への関心度アンケート

■マスコットキャラクター

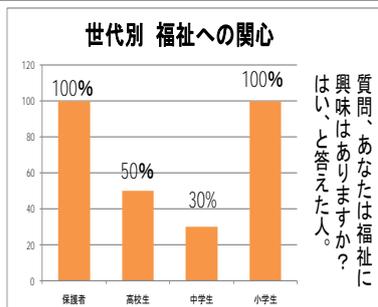
サポートちたには既存の団体マークがあるが、マスコットキャラクターはないということで、今回、日本福祉大学の学生とサポートちたにつながる小中高生とその保護者の方に考えてもらった。



たくさんの応募作品の中から、サポートちたのスタッフの皆さんと一緒に選んだ「最優秀作品」

■福祉意識調査

中・高校生たちに福祉へ関心を持ってもらえるように、私たちは何をすべきか、一緒に考えませんか。



■福祉NPOへ現場体験

訪問先:【ゆいの会】【だいこんの花】

「介護の現場を知ってから、取材してみれば？」とSL担当者からのアドバイスもあり、知多市内にある「ゆいの会」と「だいこんの花」で、デイサービスを一日体験。最初は利用者の方と、どんなふう接すればよいかわからなかったが、一緒に過ごすうちに少しずつ話をする事が出来た。利用者のために働いたのだが、逆に自分たちが楽しみ、心に何か温かいものを感じた。将来の仕事を福祉に選び良かったと改めて思った。

■福祉NPOへの取材

訪問先:【はっぴいわん大府】【孝行の会】

【ネットワーク美浜】【あゆみ】

どの団体の代表も口を揃えて、「NPOは特別なところではない。」「いつでも誰でも来てくださいね。」と、門戸が広い。また、取材の先々でお会いしたスタッフや利用者みなさん笑顔がとても素敵で、一緒にいて心が和んだ。こんなに素敵な活動をしているNPOが地域の中にあるのに、情報社会の今その実態があまり知られていないことに驚いた。「知る」ことをすれば人との交流が増えて、住みやすい地域になる。そのために私たち学生に出来ることは何か考えた。

【番外編】

現場体験や取材にお伺いした際に、スタッフの方の手作り昼食をいただいた。本当に美味しかった！中でもはっぴいわん大府とネットワーク美浜が僕たちのお気に入り。好みは人それぞれなので、皆さん、ぜひサポートちたのNPO現場見学バスツ



はっぴいわん大府のカレー

アーに参加して、いろんな団体の昼食を味わってみてはいかがですか？

■NPOマネジメントセミナー

取材を通してNPO立ち上げの経緯がわかった。実際の団体運営について、サポートちた主催の「NPOマネジメントセミナー」を受講。キーワードは「ひと」「もの」「資金」「情報」。「ひと」×「情報」=仲間を増やしたり、「もの」×「資金」×「情報」=助成金申請で車両や備品購入ができる。一つとして欠けることなく作用しあう軸には、「同じココロザシ」の一本筋が通っている。

■最後に

私がサービスマネジメントを選んだ理由は、自分が福祉に向いていないと考えていた。「他人任せ」「人とかかわるのが苦手」等、福祉に向いていない性格と



レポート作成中です

思っていた。大学に入ってから福祉は、給料が安いのに重労働なのであまり仕事にしたいと悩んでいた。義肢装具士に関心があった私は、中途半端だと自分のためにならないので、このサービスマネジメントで社会福祉士を学び続けるべきか見極めたいと思い受講した。取材や現場体験先の利用者の方の笑顔を見て、この笑顔に関わる道に進むことに誇りを感じている。大学に入学して最初に言われた「医療は人の命に関わり、福祉は人の人生に関わる」という言葉の意味をほんの少し理解できたと思う。(松田)

最初、このサービスマネジメントは第一希望ではなかった。自分の希望に合っているといわれ、どのようなものかわからないまま選択した。今までほとんど関わったことのないNPOの方や利用者の方と関わる事ができ、結果的に良かったと思う。法人への取材だけでなく、ボランティア体験もできた。インタビューだけでは感じる事の出来ない、その場の雰囲気や利用者の方の満足そうな顔を知る事ができた。このような活動をするきっかけとなった、サービスマネジメントと福祉学部を選んで良かった。(河合)

私たちの計画を支えてくださった竹内さんを始め、はっきりと計画第一弾の問題を指摘してくださった代表の岡本さん、サポートちたのスタッフの方々から沢山学ばせて頂いた。ありがとうございました。

(日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科
2年 河合賢 松田拓也)

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■ 9/1 半田の新スポットここに誕生!!

Human(人)と Area(地域)をつなげる新感覚カフェ Hand A cafe がクラシティ3階にオープン。

オープニングキャンペーンも行いますので、ぜひお越しください!! ※コラボしていただける方も大募集☆

<日程> 9月1日(水) 11:30 ~ 20:00

<場所> クラシティ半田3F

<問合せ> NPO法人エンド・ゴール Hand A cafe
TEL: 050-1183-1650 (担当:岸本)

■ 第3回あかり感謝まつり

NPO法人あかりでは、感謝まつりを開催します。様々な催し物や食べ物をご用意。同時に介護相談も実施中ですので、皆さんお誘い合わせて、おでかけください。

<日程> 9月12日(日) 10:00 ~ 14:30

<場所> 常滑市塩田町2-135 あかり事務所

<問合せ> NPO法人あかり TEL: 0569-35-4185

■ 子どもたちがつくるまち キッズみや

子どもたちがゲームなどを通じて、「まち」や「働くこと」を楽しみながら学び、理想のまちづくりをします。蒲郡のまちを一緒に盛り上げてみませんか! ぜひご一報ください。

<日程> 9/26, 11/13(子ども会議)、11/28(当日)

<問合せ> NPO法人楽笑

TEL: 0533-69-1169 (担当:佐宗)

■ 「あいちトリエンナーレ」を写そう!

あいちトリエンナーレを題材に写真撮影のセミナーを行います。実際に撮影し、写真を見ながら意見交換をします。何を写真で伝えるかを考え、どのように撮影するのか一緒に学んでみませんか?

<日程> 9月22日(水) 13:30 ~ 15:30

<場所> 愛知県芸術文化センター B2階 アートプラザ

<問合せ> NPO法人ボランティアネイバース

TEL: 052-979-6446 (担当:井村・伊藤)

■ 遠足ボランティア募集

デイサービスの遠足で、利用者さんとおでかけして下さるボランティアを募集します!! 未経験OK、要参加費。

<日程> 10月27日(水) 9時お達者クラブ集合

<場所> お達者クラブ⇒洞戸観光ヤナ

(一宮市北人神明町3-10)⇒(岐阜県板取川)

<問合せ> NPO法人お達者クラブ

TEL: 0586-24-3939

☆会員団体紹介☆

NPO法人 共育ネットはんだ



小学校生活支援員研修【子ども支援者のためのABC講座】の様子(写真左3人目 講師の水野さん)

共育ネットはんだは、「共に育み、共に育ちあう」という活動理念を基に、平成13年から活動を開始

し、昨年NPO法人格を取得した団体。出

会いと体験を基本に子どもたちの自立(自律)に向けた寄り添いを目的に活動している。様々な「体験」を主とする講座の企画運営や発達障がい児のスポーツクラブ「ableBBC」の運営、職場体験支援や就労体験、ボランティア体験のコーディネート等行っている。代表の水野さんは、「不登校・いじめ・家庭の事情など様々な問題を抱えている子ども達が、体験や活動を通し、子どもたちが少しずつ変わっていく」と話す。

また、共育ネットはんだでは、学校で上映会を開催するなど、学校と連携した活動を実践している。このように学校教育の中に福祉を学習する機会はずますます必要とされている。(竹内)

NPO現場見学バスツアー

10月21日(木) 9:30~16:30 定員26人
参加費 5,000円(昼食代別途)

オプションバスツアー常時受付中!
目的に合わせて企画します。(担当:後藤)



特定非営利活動法人
地域福祉サポートちた



478-0047 知多市緑町12-1

知多市市民活動センター1階

Tel 0562 (33) 1631
Fax 0562 (33) 1743